

1. 評価結果概要表

作成日平成20年12月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201637		
法人名	特定非営利活動法人 つくも福祉グループ		
事業所名	グループホーム 大和		
所在地	〒857 - 1165 長崎県佐世保市大和町1142番地2 (電話) 0956 - 34 - 2666		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855 - 0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成21年1月20日

【情報提供票より】(平成20年10月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	5月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	14 人	常勤	9人, 非常勤	5人, 常勤換算 10.4人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3000円・実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月26日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	67 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	重野内科・大串歯科・平川整形外科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

坂のある住宅地にあり、日当たりがとても良く、既存の住宅を改修された住まいとは感じさせない清潔感のあるホームである。NPO法人理念である【その人らしくいきいき】をモットーに、“入居者も職員も皆家族”のように、みんなで支え合いながら暮らされており、明るさや温かさはどこにも負けないと自負されている。また、地域貢献にも尽力されており、ショートステイやデイサービスの利用も可能で、自宅復帰に向けた支援も視野に入れられている。今年10月からは、公民館の鍵の管理を任せていただくこととなり、地域との交流も深まり、さらに広げていくことを検討されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善計画シートを立て、繰り返し話し合いを行い取り組まれている。その結果、優先順に入浴支援については、入浴拒否者が減り、終末期については、「ターミナルについて」の指針を明確にされ、災害対策については、さらに強化し、市町村との連携については、共用型通所介護サービスの開始にあたり協働関係を築けている。その他にも、外部評価時の話し合いを通して自ら気づかれたことについて、改善の取り組みに活かし実践されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で話し合い、取り組まれている。前回の外部評価が終了した段階で、管理者は折に触れ改善課題について職員に問いかけられ、常々評価項目を意識しながら支援に当たられている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月に1回開催され、ホームの活動状況の報告や活発な意見交換がなされていることが、会議録からも図り知ることができる。会議に参加された地域の方々の貴重な意見を基に、「自分達ホームにできることは何なのか」が見えてきており、サービスの質の向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 1年に2回、春と秋に家族会を開催しており、忌憚のない意見交換ができています。出された意見や要望については、随時話し合い、事業運営に反映させている。さらに、なかなか言い出しにくい意見など生の声を聴かせていただくためにはどうしたらいいのか、絶えず検討されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 今年10月から、公民館の鍵の管理を任せてもらえるようになった。24時間体制で公民館の鍵を預かっており、地域の人々がこれまで以上に頻りに訪れ、ホームの存在を知ってもらえる機会となったほか、交流がさらに深まっている。ホームに住所のある入居者は、老人会に加入されており、催しものへのお誘いも受けている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまで以上に地域密着型サービスとしての役割を目指した理念の内容が求められるようになったこと、目標を高く持ちたいというホームの想いが合致し、理念について職員全員で再考している。新たな理念【地域に愛され親しまれ頼りにされるグループホームを目指します】を作り上げ、今年の4月より変更されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で再考し、独自に作り上げられた理念であるからこそ、職員それぞれの心髄にあり、実践に活かされている。「地域のためにホームにできることは何か」を問い続ける姿勢が理念の根底にあり、自信を持って新たな理念を掲げ、地域貢献に取り組むことができている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年10月から、公民館の鍵の管理を任せてもらえるようになった。24時間体制で公民館の鍵を預かっており、地域の人々がこれまで以上に頻りに訪れ、ホームの存在を知ってもらえる機会となったほか、交流がさらに深まっている。ホームに住所のある入居者は、老人会に加入されており、催しものへのお誘いも受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での改善課題については、改善計画シートを活用され、改善に向けて取り組まれている。評価結果は、運営推進会議でも図られ、繰り返し職員へも投げかけ話し合われている。その他にも、外部評価時の話し合いを通して自ら気づかれたことについて、改善の取り組みに活かし実践されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、ホームの活動状況の報告や活発な意見交換がなされていることが、会議録からも図り知ることができる。会議に参加された地域の方々の貴重な意見を基に、「自分達ホームにできることは何なのか」が見えてきており、サービスの質の向上に活かされている。		

グループホーム 大和

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年10月より開始した共用型通所介護の申請手続き等をきっかけに、市の担当者との協働関係を深められている。		認知症を理解し、認知症の方を地域で見守り応援者となるために市が取り組みを始めた「認知症サポーター100万人キャラバン」活動について、ホームでも地域の会合に取り入れるなど、貢献されることを期待したい。また、日常的に、市の担当窓口を大いに活用され、協働関係を維持されることに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪れた際は必ず近況などを報告するよう心がけられている。また、随時必要があれば、連絡をとっている。さらに、ホーム全体の状況などは、季節毎に発行している「やまとだより」を郵送し、お知らせしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に2回、春と秋に家族会を開催しており、忌憚のない意見交換ができています。出された意見や要望については、随時話し合い、事業運営に反映させている。さらに、なかなか言い出しにくい意見など生の声を聴かせていただくためにはどうしたらいいのか、絶えず検討されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はほとんどなく、退職の際も、入居者への説明を十分に行うなど、入居者へのダメージを最小限にするよう配慮されている。管理者は良い人材に恵まれありがたい、語っておられ、新任職員の採用にも苦慮されることなく、スムーズに移行できている様子がうかがえた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはなるべく多くの職員が参加できるよう、また資格取得についてもホームをあげて意欲的で、勤務体制も考慮に入れられている。内部でも勉強会を行っており、職員からの疑問や質問にも応じられている。また、職員は、上司から業務に対する的確なアドバイスを受けることができています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック会議や講習会などに参加し、情報交換をするなど、質の向上につなげられている。同業者間での信頼関係も築けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談の段階から必要に応じて、本人、家族との面談や訪問を繰り返し行い、状況把握に努めると共に、信頼関係を築けるように心がけられている。サービス利用開始については、見学体験を経て見極めてから、決定されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員一人ひとりが、入居者も皆家族だという想いで接しておられる。喜びも悲しみも共に分かちあい、支えあう関係を目指されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの話をゆっくり傾聴することはもちろん、時や場所を選ばず表出されるなにげない言葉や表情を見逃さないよう努められ、記録にも留められている。アセスメント記録表の随所に追加記入が見られることから、本人本位に検討されていることがうかがえた。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の希望を聴き、作成されている。職員間での話し合いを勉強会の中で持ち、出された意見やアイデアも反映されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回の見直しのほか、状況変化が生じたり、達成困難な場合は、随時再検討をされ、計画変更を行っている。日々の記録の中でも、介護計画の要点を記載したホーム独自の菜を作って挿むなどの工夫をこらし、介護計画に沿った記入の仕方を心がけられている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	“入居者も職員も皆家族”を理想とされ、通院介助や様々な申請手続き等も、家族に代わって支援されている。また、自宅復帰を目指した支援もされており、隣接住居の2部屋を管理され、短期利用共同生活介護や共用型通所介護の体制も整えられている。さらに、24時間体制の利便性を活かし、10月から公民館管理として、鍵の受け渡しを任せてもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診の通院介助をホームで支援することを基本とされている等の理由により、本人・家族に説明し了承を得て、協力医療機関に変更している。また、特定疾患があるなど状況に応じ、入居者のかかりつけ医の継続支援もされている。現在、協力医による4週に1回の往診があり、緊急時は電話1本で対応してもらえるなど、医療連携も密にできている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今年1月にターミナルを初めて経験され、その経験を踏まえ「ターミナルについて」のホームの指針を明確にされていた。ホームにとっての看取りとは、医療処置を施すことなく昔ながらの家庭的な最期を理想とされており、今後入居者や家族と共に終末期について向き合い、意向に沿って医師とも連携を図り対応していきたいと語られた。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねない対応については、管理者を始め職員の言葉かけや支援の仕方です十分に図り知れる。また、個人情報の取り扱いについても、保管場所や通信等において、細心の注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	法人理念【その人らしくいきいきと】が根底に根付いており、本人のペースを優先した支援をされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや後片付けなど、入居者個々の能力に合わせ一緒に行っている。決して無理強いをすることはない。入居者と職員が同じテーブルを囲み、介助が必要な人には支援をされ、会話をしながら食事を楽しまれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に沿った入浴の支援がなされている。入浴を拒否される方へは、アプローチの仕方次第で状況が変化することも経験上把握されている。また、入浴介助の際、清潔保持の面で、つい手を出しすぎてしまうところがあり、本人のペースを尊重し見守りの姿勢を心がけたいとの意向である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアの講師を招き、水彩画を楽しまれている。また、書道や折り紙での作品作りなど、好みや力を活かした楽しみごとがある。役割についても、来客時のご案内役など、入居者の生活歴に合わせた配慮がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通院受診時や買い物で出かけたり、近くを散歩したりしている。また、玄関前に日当たりのよいテラスがあり、気候の良い日は外気浴も楽しめる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は、鍵はかけていない。鍵をかけることによる弊害を十分に理解されており、見守り重視で対応されている。時々出て行こうとされる入居者の安全対策として、玄関にセンサーベルを設置し、必要時のみ作動できるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防用設備の整備や災害備品の準備、個人情報の持ち出しなど、災害時の備えを強化されている。また、出入り口が玄関のみであったことから、窓の1か所を掃き出し窓に改修されている。災害訓練も定期的実施されている。訓練時の入居者参加については、その後入居者に及ぼす影響を考慮され、踏み出せずにいるが、今後の検討課題とされている。		

グループホーム 大和

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護計画とは別に、個々に栄養ケア計画を作成し、一人ひとりの状況に応じた支援に努められている。さらに、家族に管理栄養士の方がおられ、栄養面での専門的アドバイスをいただくことができている。また、冬季でも夜間に居室に戻る際にペットボトルを常備するなど、水分確保についても配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前独身寮で空き家だった住宅を改修されており、その面影は全く感じさせられない。入居者も一緒になって話し合い、改修を重ねられていて清潔感があり、あちらこちらに飾られた花々によって季節感に溢れた空間となっている。入居者の水彩画や書道などの作品を壁に展示した「あじさい画廊」があり、所々にソファや椅子を設け、ゆったりと和める工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の窓にも花が置かれていたり、日記を日課とされている方の居室には机があり、その上には書物が置かれていた。また、仏壇が置かれている居室もあり、カーテンやカーペット類も様々で、タンスや椅子なども馴染みの物を持ち込まれており、一人ひとりが居心地よく過ごせる工夫がなされている。		